

# 道路事業 事後評価

## 一般国道4号 しづたみ 渋民バイパス

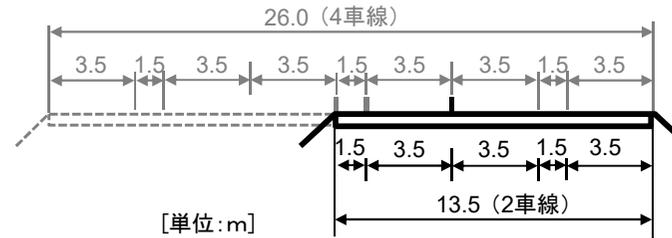
令和2年3月19日  
国土交通省 東北地方整備局

# 1. 事業の目的と概要(1)

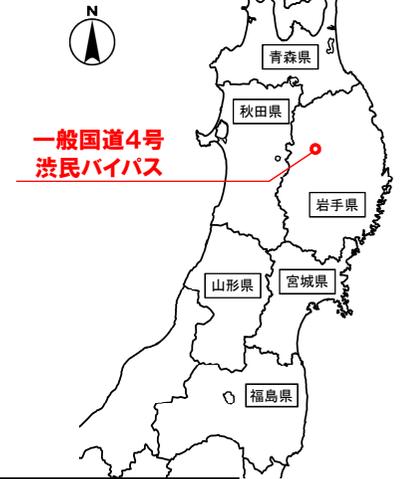
## ○事業目的

- ・ 国道4号盛岡市渋民地区内の交通混雑緩和
- ・ 沿道環境の改善
- ・ 冬期の幹線道路の信頼性確保

標準横断図(幅員)



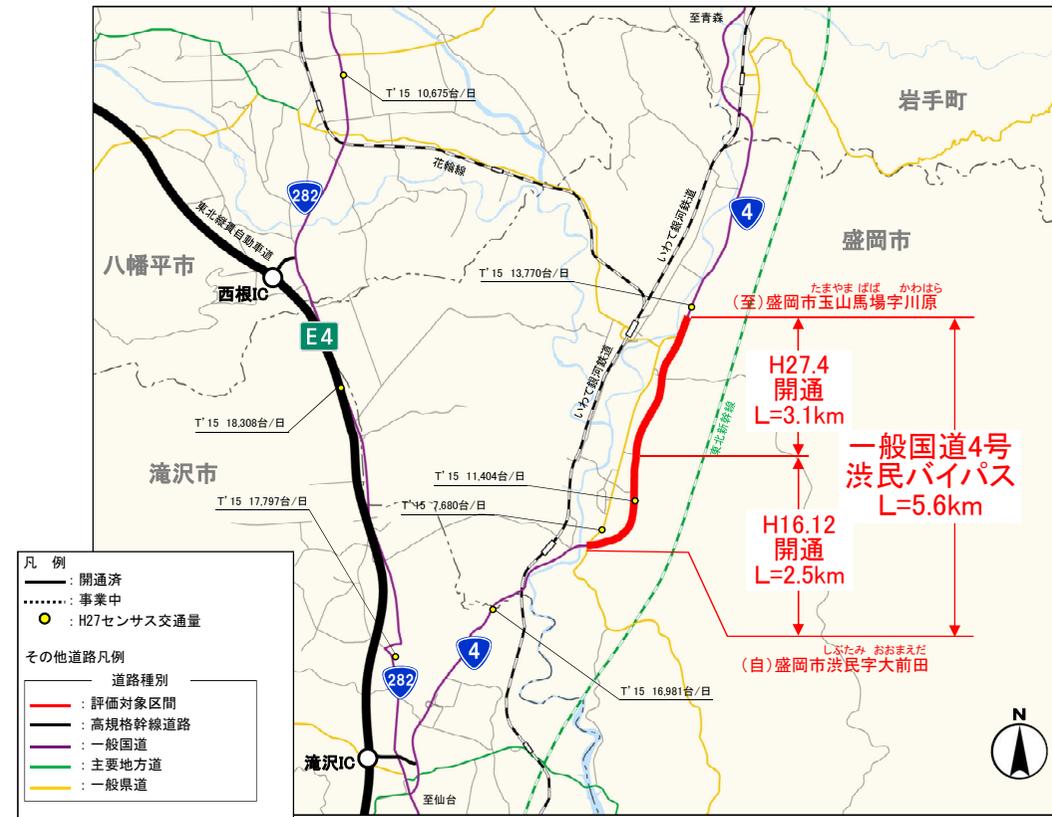
位置図



## 渋民バイパス 計画概要

- 起終点 : 自) 岩手県盛岡市<sup>しぶたみ</sup>渋民字大前田<sup>おおまえだ</sup>  
 至) 岩手県盛岡市<sup>たまやま</sup>玉山馬場字川原<sup>かわはら</sup>
- 延長 : 5.6 km
- 道路規格 : 第3種第1級 設計速度 : 80 km/h
- 事業化 : 昭和61年度
- 用地着手 : 平成2年度
- 都市計画決定 : 平成3年度
- 工事着手 : 平成8年度
- 部分開通 : 平成16年度 (H16.12.18)
- 全線開通 : 平成27年度 (H27.4.12)

渋民バイパス 位置図



# 1. 事業の目的と概要(2) 整備状況

① 起点から終点方向【R1.8】



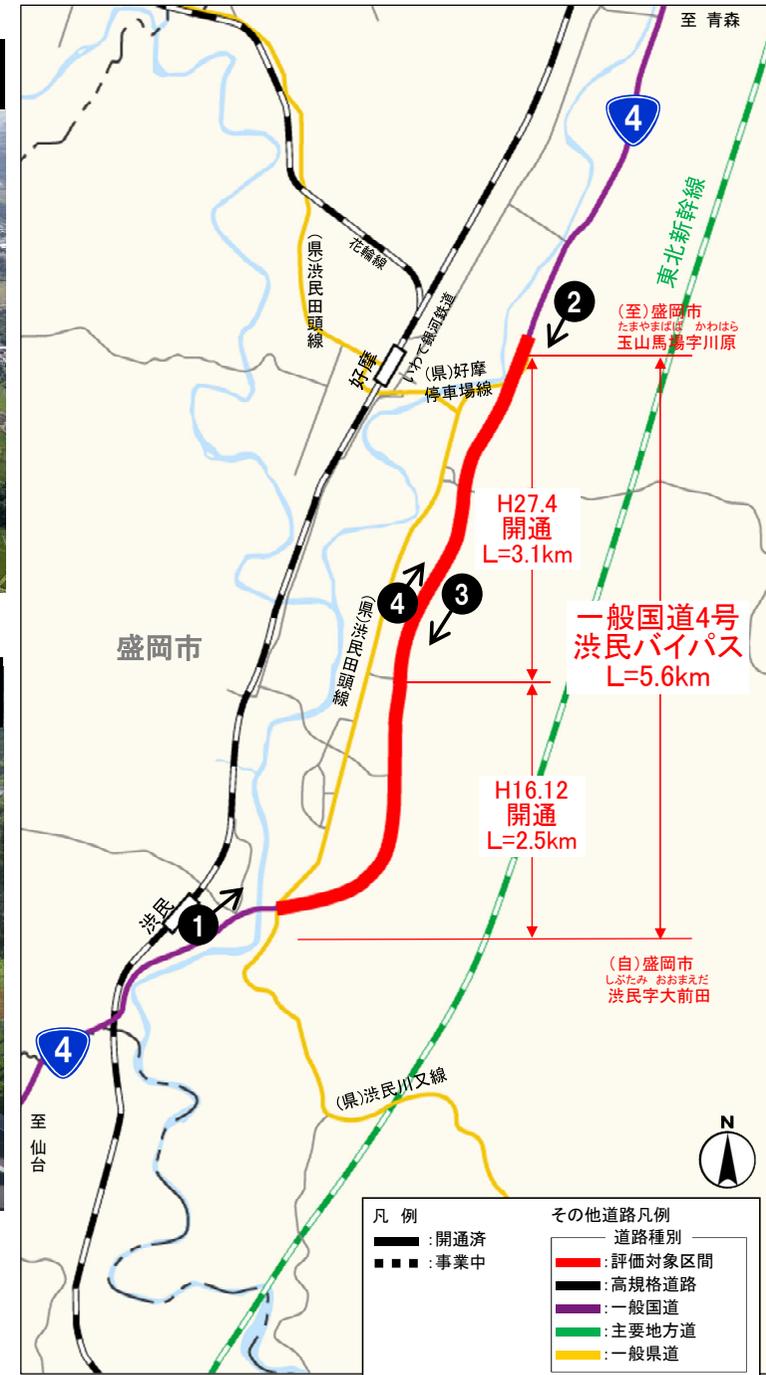
② 終点から起点方向【R1.8】



③ H16.12部分開通区間【H27.7】



④ H27.4開通区間【H27.7】



# 1. 事業の目的と概要(3) 開通記事

## 国道4号渋民バイパス

### きょう部分開通

国土交通省が玉山村渋民地区で整備を進めている。総事業費は約百三十億円。一九八六年に事業着手し、九六年に本格工事がスタートした。同省岩手河川国道事務所によると、整備区間の旧国道4号は、一日当たり約二万三千六百台の車両が通行(一九九年)。村役場前交差点付近は、幅も狭く朝夕を中心に慢性的な渋滞を引き起こしていた。安全面確保も含め、バイパスの早期整備が待ち望まれていた。

部分利用開始により、一日当たり約七千台の通過交通が転換され、渋滞緩和が図られる見込み。全線開通されると約一万三千九百台が転換されるという。

国道4号渋民バイパス

至岩手町

玉山村

玉山村中央公民館

渋民小

玉山村役場

石川啄木記念館

至盛岡

未整備区間

開通区間 2.5km

資料：岩手日報 (H16. 12. 18付)

# 渋民バイパス全線開通

## 着手29年、渋滞緩和

国土交通省岩手河川国道事務所が整備してきた盛岡市玉山区の国道4号渋民バイパス(延長5.6キロ)の未整備区間3.1キロが暫定2車線で完成し12日、事業着手から29年を経て全線開通した。地域の悲願であった現道(同5.3キロ)の慢性的な渋滞を緩和する。同事務所は車両の移動時間が8分短縮すると試算。県央と県北をつなぐ新たな大動脈として物流をはじめ社会の高速化を支える。

【関連記事22面】

### 盛岡・玉山国道4号

会場式典を同市玉山のほか、物流の円滑化で慶賀にたえない」とあいさつした。現地式典では関係者通を祝った。今回開通した延長3

会場式典を同市玉山のほか、物流の円滑化で慶賀にたえない」とあいさつした。現地式典では関係者通を祝った。今回開通した延長3

区川崎の市渋民運動公園や観光振興が図られ、あいさつした。現地式典では関係者通を祝った。今回開通した延長3

園総合体育館で行い、谷藤裕明市長は「渋滞緩和」を待ち望んでいた開通や市民ら約250人が

国道4号渋民バイパスの全線開通をテープカットやくす玉開きで祝う関係者＝盛岡市玉山区渋民

国道4号渋民バイパス全線開通

12日開通

盛岡市玉山区

イオンスーパーセンター

盛岡渋民店

2004年開通

盛岡工業団地

JR花輪線

好摩駅

北上川

渋民小

JRGRいわて

岩手県中

松川

JR花輪線

好摩駅

北上川

渋民小

JRGRいわて

岩手県中

松川

1キロは同バイパスのついでに渋滞が緩和する。一日交通量は馬場川原の北口と区馬場川原の北口とが1万5800台、同区渋民字鶴飼をへて同バイパスは1986年度に事業着手し、南側にあたる同区渋民字鶴飼から同区渋民字大前田の南口までの延長2.5キロは2004年12月に暫定2車線で開通していた。総事業費は約100億。幅員は現道の8.12メートルから13.5メートル、最高速度は時速60キロのみとなる。現道の南口付近とIGRいわて銀河鉄道好摩駅に向かう県道129号交差点の2カ所が朝夕や冬季に発生し時期を判断する。

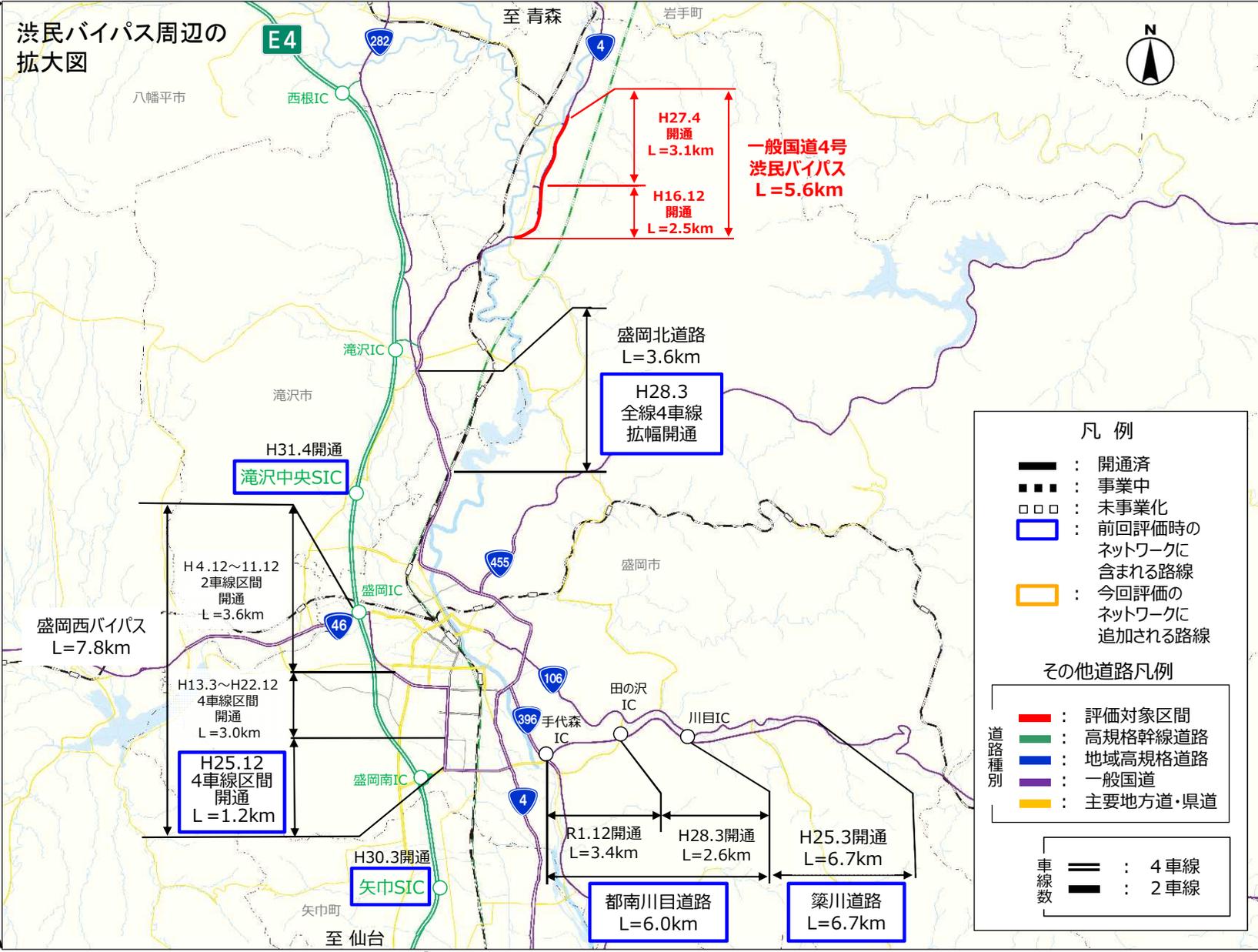
計画は全線4車線、同事務所は交通量の状況を見極めて実施

同区渋民字鶴飼をへて同バイパスは1986年度に事業着手し、南側にあたる同区渋民字鶴飼から同区渋民字大前田の南口までの延長2.5キロは2004年12月に暫定2車線で開通していた。総事業費は約100億。幅員は現道の8.12メートルから13.5メートル、最高速度は時速60キロのみとなる。現道の南口付近とIGRいわて銀河鉄道好摩駅に向かう県道129号交差点の2カ所が朝夕や冬季に発生し時期を判断する。

資料：岩手日報 (H27. 4. 13付)

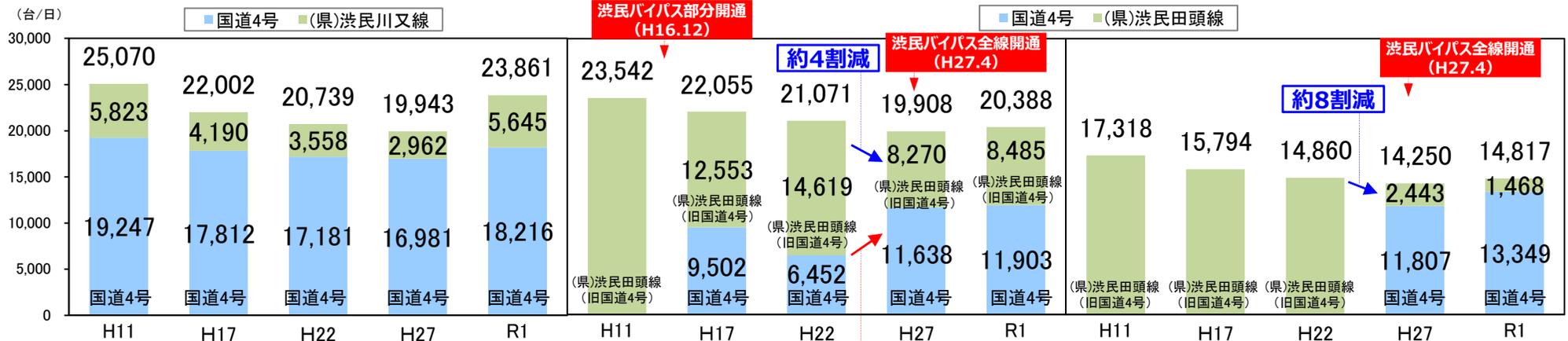
## 2. 前回評価時からの周辺環境等の変化

- ◆ 築川道路は平成25年3月に開通。盛岡西バイパスは平成25年12月に全線開通。盛岡北道路は平成28年3月に全線4車線拡幅。
- ◆ 矢巾SICは平成30年3月、滝沢中央SICは平成31年4月に開通。都南川目道路は令和元年12月8日に全線開通。
- ◆ 金ヶ崎拡幅は平成29年度に新規事業化。



### 3. 交通状況の変化等(1) 交通量

- ◆対象区間の最新の利用交通量は約11,903台/日(渋民バイパス南側区間)。
- ◆平成27年4月の北側3.1km開通によって、既開通区間の交通量は約1.8倍に増加。

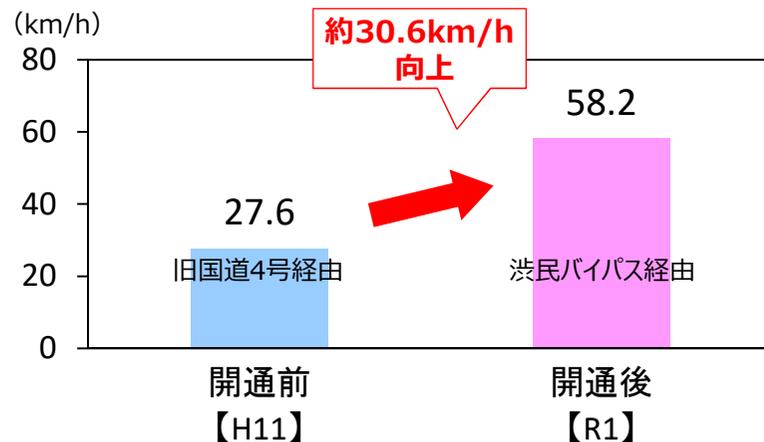


### 3. 交通状況の変化等(2) 所要時間等

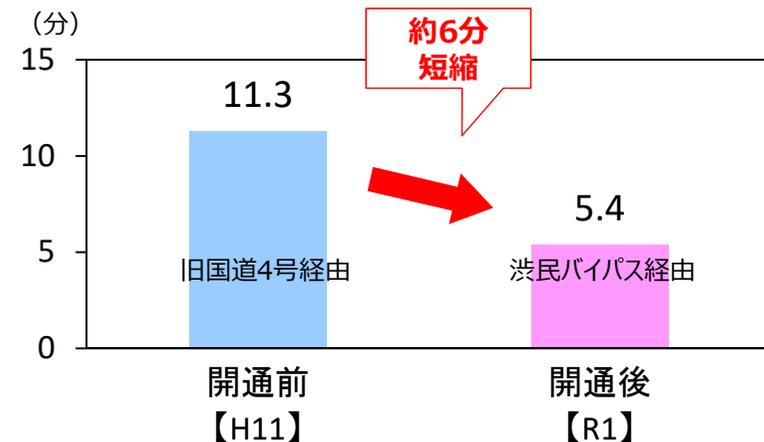
◆ 渋民バイパスを利用することで、整備区間の平均速度が約30.6km/h向上し、所要時間が約6分短縮。



▼ 渋民バイパス区間の平均速度の変化



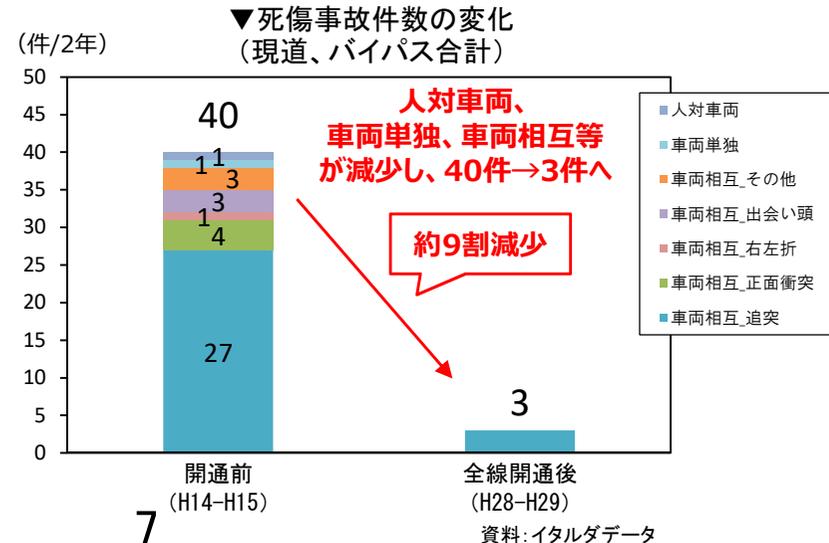
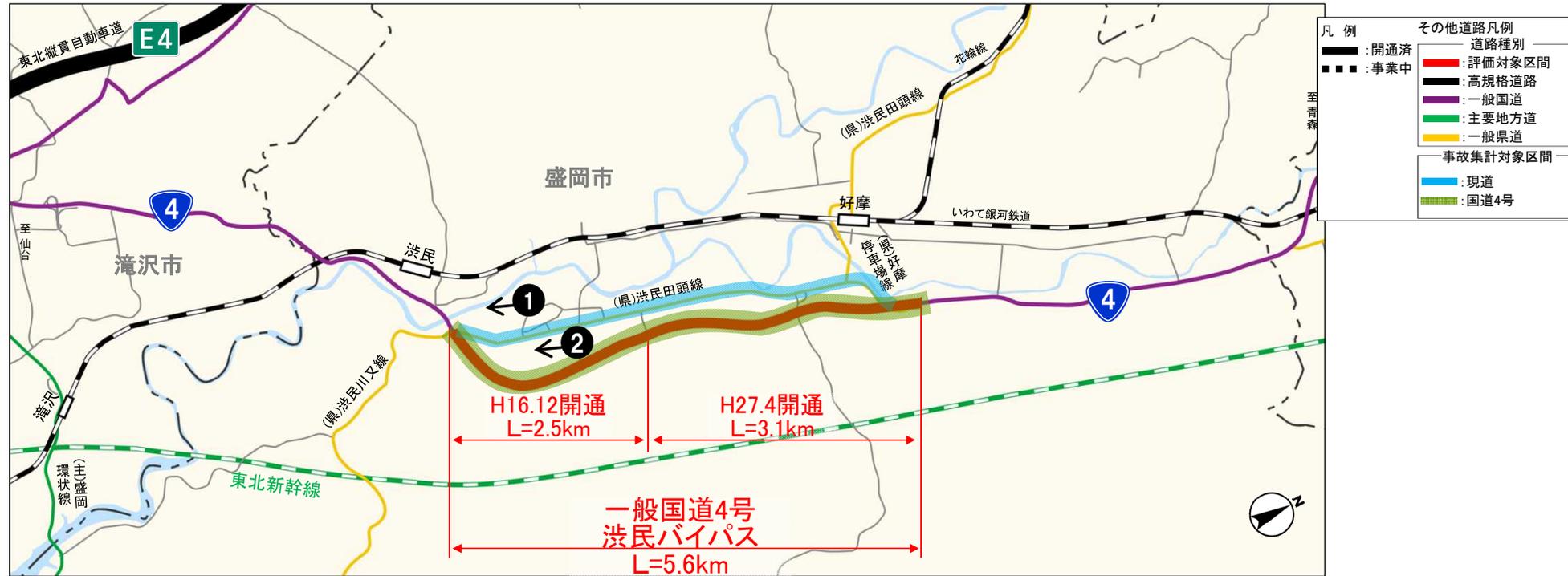
▼ 渋民バイパス区間の所要時間の変化



資料：H11全国道路・街路交通情勢調査（平日混雑時）、ETC2.0プローブデータ（様式2-3、R1.10平日、混雑時(7-8・17-18時台)上下平均）

# 4. 事業効果の発現状況(1) 事故減少

- ◆ 開通前は混雑に起因する追突事故の危険により安全性が低かったが、開通後の事故件数はバイパスも含め約9割減少。
- ◆ 事故類型別では、正面衝突、追突などの車両相互による事故等が3件/2年に減少し、安全性が向上。



《沿線企業通勤者の声》

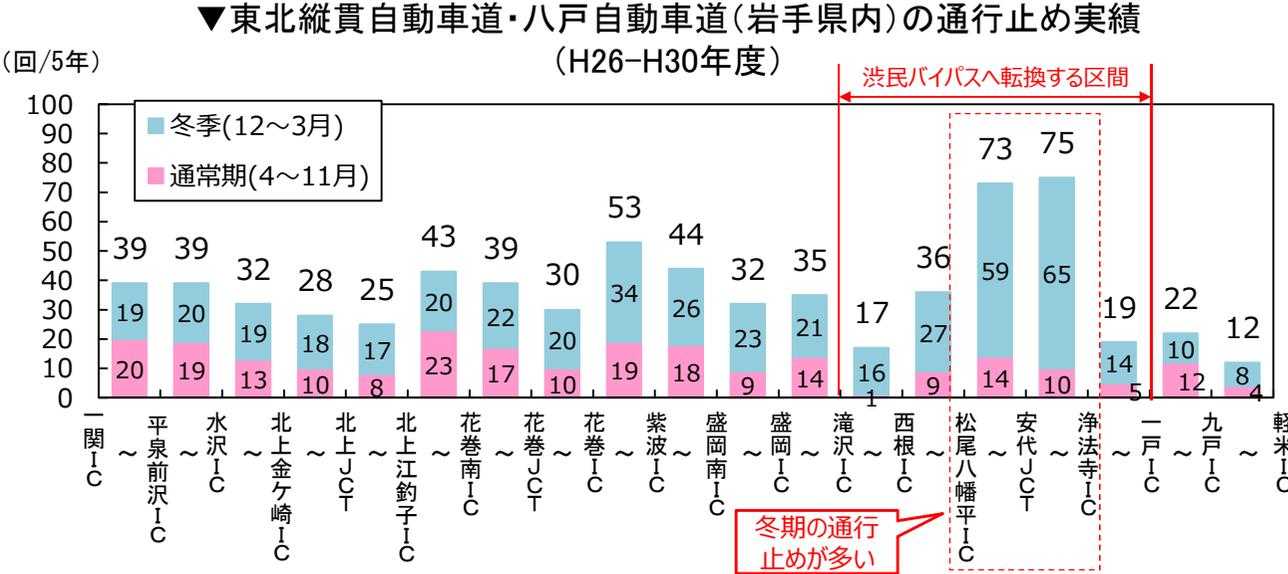
- ◆ 開通により、通勤時は旧国道4号((県)渋民田頭線)から国道4号(バイパス)利用に変更した。
- ◆ 交通事故による遅れなどが発生していたが、開通によりスムーズで**安全な走行が可能**となった。

(R2.1 沿線企業ヒアリング結果)



# 4. 事業効果の発現状況(3) 災害時の信頼性が向上

- ◆東北縦貫自動車道・八戸自動車道では冬期通行止めが頻発し、迂回交通が国道4号へ転換。
- ◆H22年12月31日～H23年1月1日の大雪等、渋民バイパス並行現道(旧国道4号)で災害による通行規制が発生。
- ◆渋民バイパスの整備により代替性を確保でき、災害時の信頼性が向上。



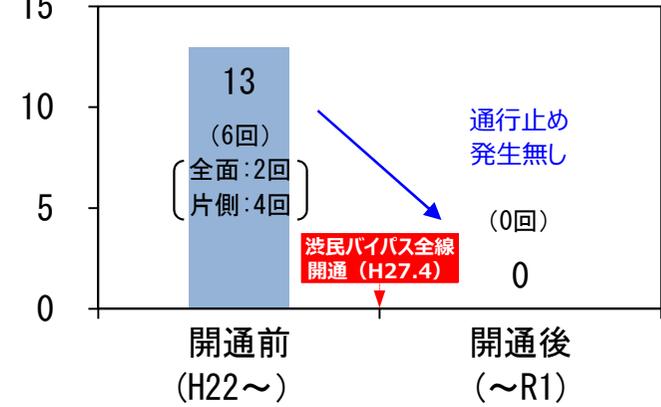
▼大雪による通行止め(H27開通区間現道)



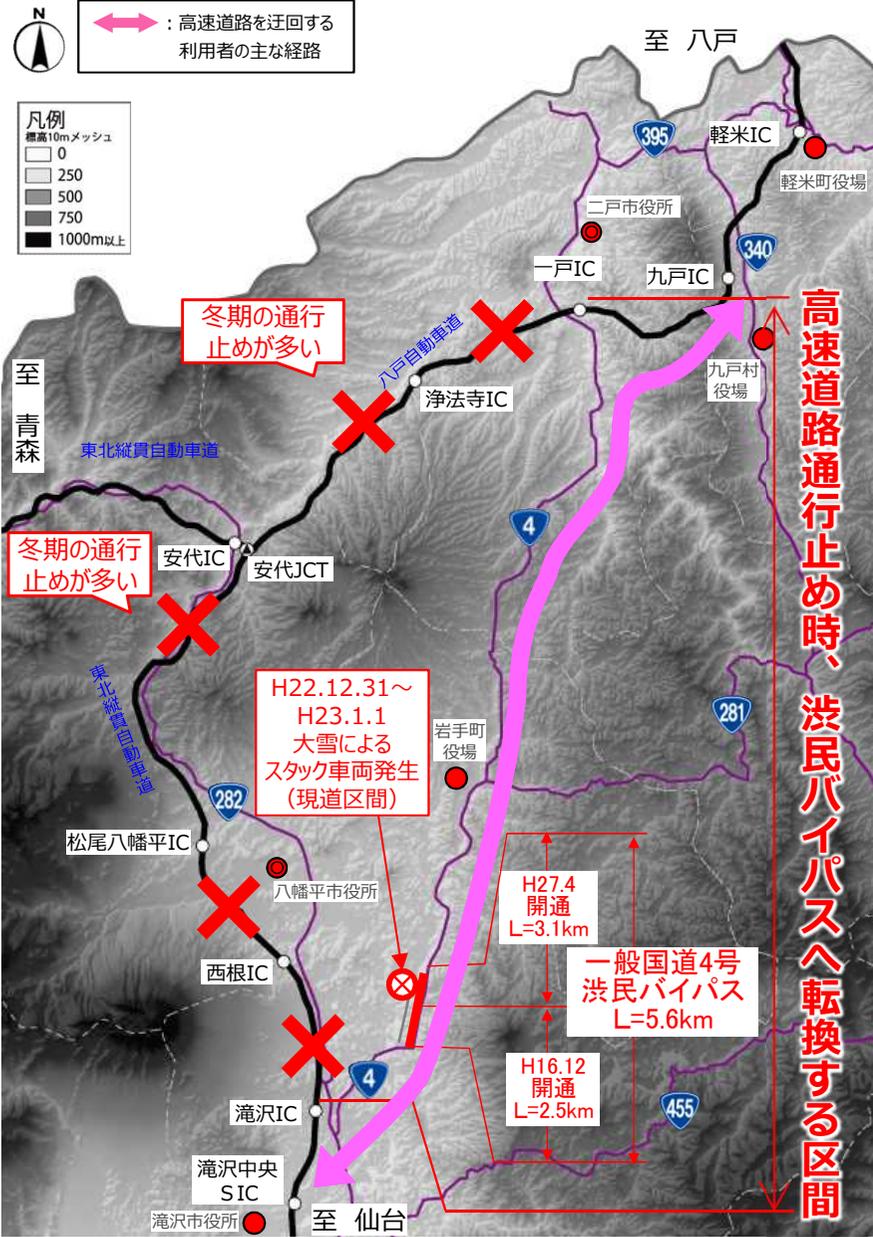
撮影日：H22.12.31～H23.1.1

高速道路通行止め時、渋民バイパス並行区間の現道においても通行止めが発生

▼渋民バイパス及び並行現道区間の通行止め発生時間



渋民バイパス開通により代替性が確保

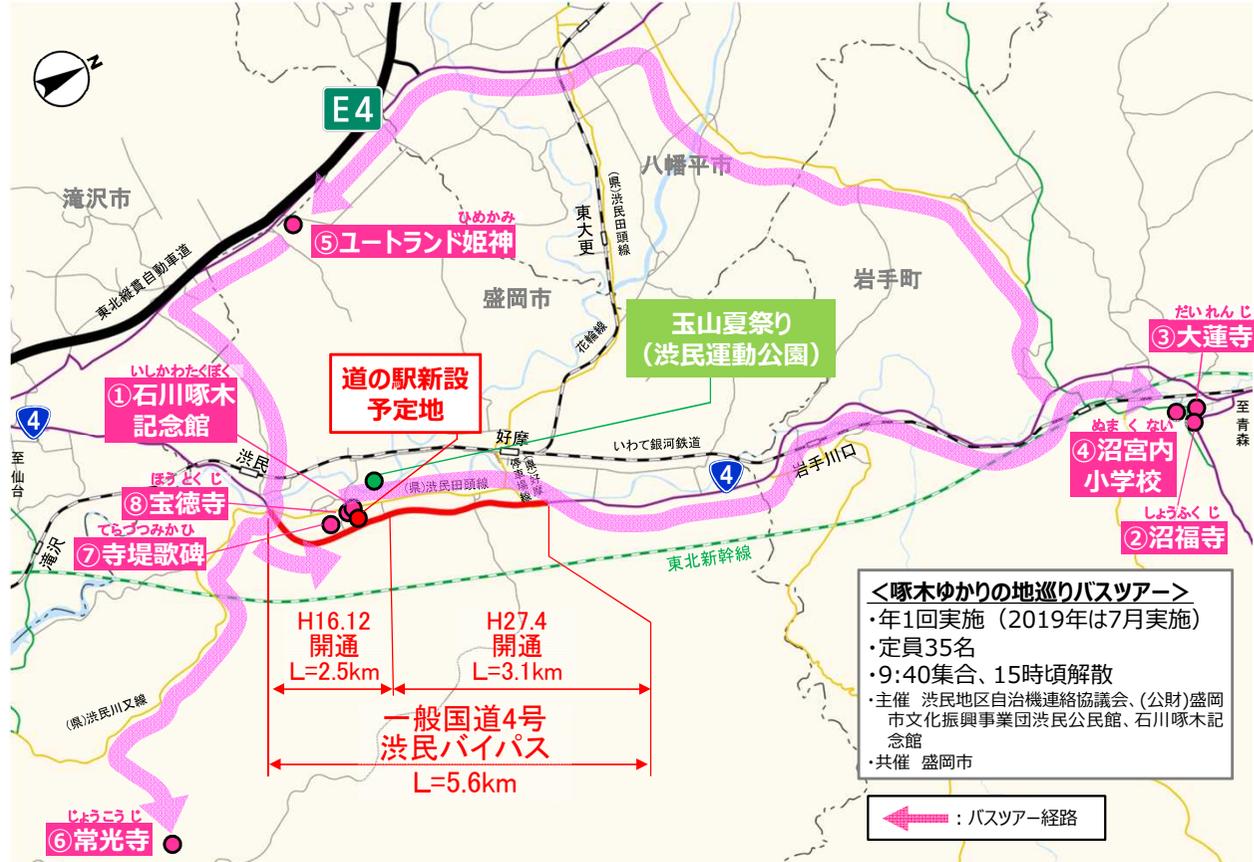


資料：国土地理院データを基に作成

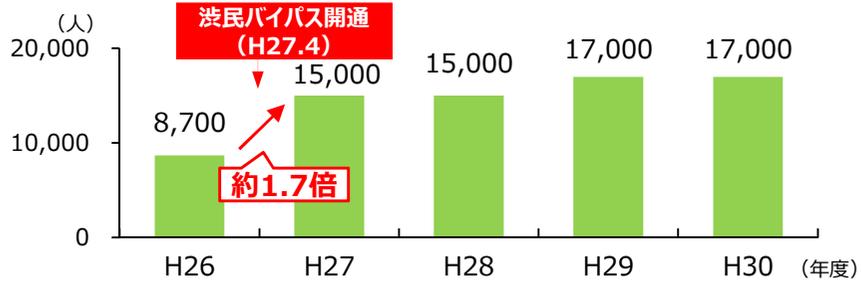


# 4. 事業効果の発現状況(5) 観光・地域交流支援

- ◆沿線では、歌人 石川啄木をイメージした道の駅が新設予定。対象地域では啄木ゆかりの地を巡るバスツアーが開催されている。
- ◆地域の夏祭りも開催されており、開通後は入込客数が約1.7倍に増加。
- ◆渋民バイパスの整備により、地域の活性化や観光ルートの形成に寄与。



▼玉山夏まつりの入込客数の推移



資料：盛岡市玉山総合事務所 産業振興課

## 道の駅 啄木イメージ

### 盛岡・渋民 整備基本計画案

盛岡市は、同市市民に整備する道の駅の整備基本計画案を示した。同市初の道の駅は、郷土の先人である歌人石川啄木をイメージの柱とし、産直に加え防災や防災交流、若者の帰郷チャレンジを幅広い機能を持たせる。玉山地域振興会や市議会への説明会を本年度中に計画を決定し、2023年度中の利用開始を目指す。

計画案は、同市に整備する道の駅の整備基本計画案を示した。同市初の道の駅は、郷土の先人である歌人石川啄木をイメージの柱とし、産直に加え防災や防災交流、若者の帰郷チャレンジを幅広い機能を持たせる。玉山地域振興会や市議会への説明会を本年度中に計画を決定し、2023年度中の利用開始を目指す。

計画案は、同市に整備する道の駅の整備基本計画案を示した。同市初の道の駅は、郷土の先人である歌人石川啄木をイメージの柱とし、産直に加え防災や防災交流、若者の帰郷チャレンジを幅広い機能を持たせる。玉山地域振興会や市議会への説明会を本年度中に計画を決定し、2023年度中の利用開始を目指す。

資料：若手日報 平成30年11月14日付

### ＜新道の駅概要＞

- ・歌人 石川啄木をイメージの柱として防災や交流機能を付与。
- ・R5年度開業予定。
- ・来客者数推計30万人。
- ・年間目標売上2億円。



資料：若手県観光ポータルサイト

### 《自治体の声》

◆渋民地区では、毎年8月に玉山夏まつりを開催しています。渋民バイパスの全線開通により、夏まつり参加者数は増加しました。トラック等の通過交通と混在していた交通が現道を通過しなくなり、玉山夏まつりの渋滞が減少しました。

(R1.12 盛岡市玉山総合事務所 産業振興課ヒアリング結果)

## 5. 費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化

別添一覧表参照

## 6. 事業実施による環境の変化

評価対象区間については、工事の実施及び完成後も環境への影響は確認されていない。

## 7. 社会経済情勢の変化

### ○周辺道路の整備状況

#### ・国道4号

平成28年3月 盛岡北道路（L=3.6km）開通

#### ・国道46号

平成25年12月 盛岡西バイパス（L=7.8km）全線開通

#### ・宮古盛岡横断道路（宮古～盛岡）

平成25年3月 築川道路（L=6.7km）開通

平成28年3月 都南川目道路（川目IC～田の沢IC、L=2.6km）開通

令和元年12月 都南川目道路（田の沢IC～手代森IC、L=3.4km）開通

#### ・東北縦貫自動車道

平成30年3月 矢巾スマートIC 開通

平成31年4月 滝沢中央スマートIC 開通

## 8. 今後の事後評価及び改善措置の必要性

事業の目的に対する効果を概ね発現しており、現時点では今後の事後評価及び改善措置の必要性はないが、社会状況等の変化に応じて完成形の整備を検討する。

## 9. 同種事業の計画・調査のあり方や事業評価手法の見直しの必要性

当該事業の整備目的について効果発現を確認できており、事業評価手法の見直しの必要性はない。